

(別紙4)脱気(脱酸素)処理法

水に濡れてしまった資料は、3日以上、湿気を含んだ状態で放置するとカビの危険にさらされる。また、アート紙やコート紙などの塗工紙は、濡れると乾く時にページが貼り付いてしまい、ほとんど剥がせなくなる場合が多い。そのため、すぐに処理できない資料については、冷凍したり、ここで紹介する「脱気(脱酸素)処理法」によって濡れたままでしかも雑菌(カビ)の発生を防いで「時間稼ぎ」を行う。

【必要な道具】

布団圧縮袋のようなダブルジッパー付ポリ袋
掃除機



【手順】

1 袋の中に水損資料を入れる。



2 掃除機で空気を抜く



※ 上記の方法のほかに、脱酸素剤を入れて袋内の酸素濃度を下げる方法もある。